



# 3月定例市議会 市長所信

3月議会が3月3日から25日までの23日間の日程で開催されました。開会日には、議案審議に先立ち、当面する市政の重要課題について、市長から所信が表明されます。今議会で表明された主な内容については、次のとおりです。

紙面の都合上、抜粋して要旨部分のみ掲載しています。全文をご覧になりたい方は、市ホームページをご覧ください。  
また、後日作成されます市議会会議録は市立図書館等で閲覧することができます。

## 『第5次阿南市総合計画 後期基本計画』

本市は、平成23年3月に『第5次阿南市総合計画「しあわせ 阿南2020」』を策定しました。この計画は、地域の特性、市民の皆さまのニーズなどを踏まえ、計画的、持続的な行政運営を推進するための指針として、平成23年度から10年間の基本的なまちづくりの方向を示す「基本構想」と、5年間の具体的な施策の展開を示す「前期基本計画」で構成されています。

今回、「前期基本計画」の期間が平成27年度で終了することを受け、平成28年度から平成32年度までの「後期基本計画」の策定に取り組みしました。策定にあたっては、前期基本計画の検証と、この5年間に生じた社会情勢の変化を反映させ、「あなん（地域好循環）総合戦略」と一体的に作業を進めてきました。

また、4期目に向けて私が掲げました「阿南に住む幸せを次世代へ」を理念とする、6つの柱からなる45の公約についても、すべて本計画に反映しています。今後は、この「後期基本計

画」を積極的に推し進め、基本構想に掲げた本市の将来像である「ひと、まち、心をつなぐ笑顔の光流都市」の実現を図ってまいります。

## こどもの医療費助成制度の拡充

本市では、平成25年4月から、中学校修了までの子どもを医療費助成の対象としています。このたび、次代の阿南市を担う子どもたちが、家庭の経済状況等にかかわらず安心して医療機関等で治療を受けられることや、子育て支援や少子化対策充実の声が高まるなかで、時代の趨勢や子育て家庭への支援策を総合的に勘案した結果、平成28年7月から、助成対象年齢を18歳に達する日以後の最初の3月31日までに拡大した。今議会に条例の一部改正を提案しました。

この改正によって、新たに対象となるのは約2300人で、必要な経費は年間約4300万円増加するものと見込んでいます。

なお、子育てにやさしい事業としまして、対象年齢を18歳まで拡大することを控除した額とし、41億円を限度とします。

なお、J A徳島厚生連の半永久的な財産となる用地取得費は、補助金の交付対象外経費とします。

徳島県厚生農業協同組合連合会が施設等の整備・運営をします「阿南医療センター」は、現在、実施設計業務を進めていて、今年度には、いよいよ建築工事に取掛かることとなります。

また、2月18日には、J A徳島中央会会長ならびに県南部のJ A組合長同席のもと、J A徳島厚生連から医療センターの施設等の整備に当たっての財政支援の要望がありました。

本市が将来にわたって安心できる地域医療体制の確立を図るためには、医療センターの整備は何としても進めたいかなければならない最重要事項であると認識しています。

こうしたことも考慮しながら、医療センターへの補助金の交付額や交付方法等については、本市の財政状況を見極めるとともに、国・県の補助金の動向やJ A厚生連の新病院に他市が財政支援をしている全国の事例なども参考にしながら、総合的に検討を重ね決めていきたいと思います。

まず、交付額については、医療センター「基本計画」の概算整備事業費の額をもとに、建築工事費、設計費、医療機器などの整備費、開設準備費を補助金の交付対象経費区分とし、その区分ごとの実支出額に応じて交付するとともに、補助金の総額はJ A徳島厚生連の自己資金および他の補助金等の額

とについては、四国38市の中で初めての取組です。

## 阿南市クリーンピュア

当施設は、市民生活の環境保全と公衆衛生の向上を図るため、関係地元委員会、協議会、関係団体等のご理解をいただき、平成11年3月に完成し、同年4月から運転を開始しました。本年3月をもって17年が経過しますが、これまで毎年の設備機器の点検補修と適切な運営を行い、機器類、施設および放流水の水質は常に良好に保たれています。

しかしながら、地元等とお約束しています20年の運転期間は、平成31年3月まで、期限まで残り3年余りとなりました。もともと、「阿南市クリーンピュア」は、し尿処理施設として市民生活に必要な施設であるとともに、災害時の避難場所にも指定されている重要な施設でもあります。こうしたことから、今後、平成31年4月以降の使用について、関係地元委員会、協議会、関係団体等のご理解をいただくことが重要ですが、本市としては、

## AMA(阿南・室戸・安芸)地域連携による広域観光施策

昨年、観光庁が外国人旅行者向けに設定しました全国7つの広域観光ルートの一つであるスピリチュアルな島「四国遍路」が注目を集め、外国人の遍路が増えています。

AMA地域は四国遍路のなかでも特に、弘法大師修行の地として知られ、外国人が興味を示す文化遺産や物語も多く残っていることから、先月、本市において「AMAの国づくり観光会議」を開催し、四国在住の外国人の方を講師にインバウンド事業での可能性と課題について意見交換を行いました。都市部と比べて四国東南部は外国語表記の案内も少なく、情報発信力も弱いことから、まずはWEBサイト「あまナビ」内に外国人目線で作成された外国語ブログを開設し、訪日外国人向けのサイトと連携をとりながら、四国東南部・AMA地域への誘客を図っていきたくと考えています。

## 津乃峰総合センター

平成26年9月から阿南市津乃峰町長浜に建設を進めてきました津乃峰総合センターが完成し、2月28日に落成式を執り行い、3月1日から運用を開始しました。

センターは、鉄筋コンクリート造、一部鉄骨鉄筋コンクリート造の4階建

引き続き施設の適正な管理運営に努め、設備機器の長寿命化を図りながら、当「阿南市クリーンピュア」での運転を継続したいと考えています。

## 北條民雄文学賞

この賞は、阿南市出身の作家、北條民雄の生誕100周年を記念し、ハンセン病や人権問題に対する理解を深め、北條民雄の作品や業績を顧みることを願って、合併10周年記念事業として創設したのですが、2月29日に応募期間を終了したところ、全国から65編の応募をいただきました。

今後は、選考委員に作品の選考をしていただき、受賞者の発表は本年12月号の「広報あなん」に掲載し、来年1月には文化会館で授賞式を行う予定です。

て、延床面積は約1094平方メートルで、見能林公民館津乃峰分館、消防団見能林分団第2班詰所、学童保育を備えた複合施設となっています。

災害時には1次避難所および2次避難所となることから、備蓄倉庫や自家発電設備を配置するとともに、直接4階屋上へ避難できる屋外階段を有し、津波避難ビルとしての機能を備えています。

また、平時は生涯学習の場として、地域住民の教養の向上、健康の増進、生活文化の振興、社会福祉の増進や防災まちづくりの拠点として、各種研修や集会等に大いにご利用いただけるものと期待しています。

## 地域おこし協力隊の導入

これまで、協力隊の受入予定団体と連携して、都市部での地域おこし協力隊募集会や移住・交流フェア等を通じて隊員の募集活動を展開し、2月には現地説明会ならびに個人面接を実施しました。

その結果、加茂谷地区で愛知県在住の男性1人と兵庫県在住の女性1人が、椿地区では大阪府在住の男性1人が協力隊員としてそれぞれ内定しています。

今後、受入団体とさらに連携を密にしながら、隊員が4月からスムーズに活動を開始できるよう、受け入れ態勢を整えていきたいと思います。